

～多摩区の紹介～

多摩区の概要・特徴

「水と緑と学びのまち 多摩区」

北に多摩川が流れ、南には多摩丘陵が広がる自然豊かなまち多摩区は、昭和 47 年 4 月に川崎市が政令指定都市に移行したのに伴って誕生し、平成 14 年 6 月には区の人口が 20 万人を超えました。

また、区内にはたくさんの魅力的なスポットが存在しています。登戸駅近くの多摩川河畔には二ヶ領せせらぎ館があり、多摩丘陵に位置する生田緑地には、約 117 ヘクタールの広大な緑の中に、世界的に有名な芸術家 岡本太郎の作品を収蔵した「岡本太郎美術館」、東日本の代表的な古民家を集めた「日本民家園」、世界最高水準のプラネタリウム、メガスター3 フュージョンを備えた「かわさき宙と緑の科学館」、春と秋に開放される旧向ヶ丘遊園の「ばら苑」、ドラえもんをはじめとする藤子キャラに出会えるスポット、「藤子・F・不二雄ミュージアム」などがあります。

さらに、約 2 万人の学生が区内の大学キャンパスに通う、若者のまちでもあります。

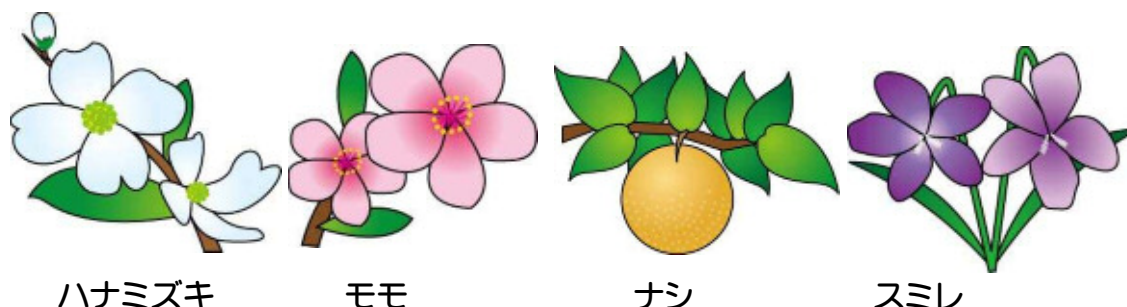
区のシンボルマーク、区の花・木

1 シンボルマーク



多摩区制 20 周年を記念し、一般公募作品の中から制定されました。多摩区の頭文字である「多」をモチーフに、緑豊かな自然環境を表現する二羽の鳥にデザインされています。自然との調和の中で、人間らしくのびのびと生活する区民と、21 世紀へ向け飛躍する多摩区に親しみやすくシンボライズしたものです。

2 区の木・区の花



ハナミズキ

モモ

ナシ

スミレ

すべての区民が「木」や「花」に親しみを持つことにより、失われつつある自然に対する理解を深め、緑化思想の高揚を図るとともに、爽やかな出会いと潤いのある住みよいまちづくりを目指して、一般区民から公募し、平成 8 年度に多摩区の「区の木・区の花」を決定しました。

その後、市制 90 周年を迎えるにあたり、「区の木・区の花」が、区民の多摩区に対する誇りや愛着を更に高め、また、今後も多摩区の魅力を区内外に伝える役割を果たすものであり続けるよう、平成 25 年度にイラストをリニューアルしました。

※それぞれの花を選定した理由は区 HP をご覧ください。



【区のこれから】

川崎市では、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区を地域生活拠点と位置付け、市立多摩病院、登戸駅ペDESTリアンデッキ、南北自由通路の整備、登戸行政サービスコーナーの設置、登戸土地区画整理事業の推進などにより、安全で快適なまちづくりやより生活しやすい環境づくりを進めています。